

	<h1>見健陵松</h1>	<p>発行日：平成23年9月1日 発行人：能代高校東京同窓会 責任者：太田勝治 編集：会報誌委員会 題字：山田晃一(第42期) 印刷：大森太田印刷(有)</p>
---	---------------	--



平成22年9月26日、千葉国体(第65回国民体育大会)高等学校野球軟式「能代高校」対「津久見高校」の試合終了後、船橋市運動公園野球場で。応援に駆けつけた同窓生が集合し、この日のため制作した横断幕を手。新聞社の取材を受けていた今畠寿樹監督(右端)にも加わっていただいで撮影した。(関連記事:7ページ)

平成23年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成23年10月15日(土)

【年会費】3,000円(1世帯)

□受付 12:00～

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

□総会 12:20～

*お振込、または当日受付にて受領します。

□講演会 13:00～

*割引制度や特例があります。

講師 工藤 栄さん(第51期)

【出欠】同封のはがきを9月30日(金)までに投函

第51次南極越冬隊長

ください。出欠にかかわらず必ず回答はがき

□懇親会 13:40～16:00

を投函して下さい!

【会場】アルカディア市ヶ谷 6階 阿蘇の間

詳細は8ページに掲載しています。東京同窓会ホームページ <http://shoryokenji.web.fc2.com/>

頑張ろう東北！ 頑張ろうニッポン！

東京同窓会会長 第29期 太田 勝治

平成23年3月11日午後2時46分、太平洋の三陸沖で巨大地震が発生しました。マグニチュード9.0というのは、約千年に一度という巨大地震とのことでした。



この日の午前中は大腸がん手術から3ヵ月目の定期検査を終え、午後は車で近所の得意先に納品をして会社に帰ったとたん、この大地震に遭遇しました。あわてて工場のドアを開けて、それに両手で掴まり、揺れる体を支えながら外を見上げれば、あちこちの電柱、電線が激しく大きく左右に揺れていました。当工場もビシビシと不気味なきしみをたてていました。「ああ、とうとう来たか！これが関東大震災か！」と一瞬覚悟を決めました。この辺の城南地区は震度5弱ということでしたが、今まで経験したことのない長い時間の激しい揺れでした。

この地震に伴って発生した巨大な津波は海から数キロ先の平地まで飲み込んで、人命や建物や船や車や家畜や農産物、海産物など全ての生活基盤に壊滅的な被害を引き起こしました。さらに福島県では、福島第一原発が大津波により機能不全となり、初期動作の遅れなどで取り返しのつかない被害を引き起こしました。天災に人災事故が重なり、未曾有の大災害となりました。地震と津波の被害は徐々に復興してはいますが、原発事故関係地域はこれからも長い間に亘って復興の最大のさまたげとなっていくような気がします。

3月19日の時点で、死者は1万5462名、行方不明者は7650名、避難生活をしている人は12万人余りとか。

3ヵ月が過ぎてもなかなか予定通りに進まない、義援金のほとんども被災者に届かないなど後手後手のニュースばかりですが、東北人特有の粘り強さ、打たれ強さ、団結力に対して、我々も同じ東北人、日本人として、自分に出来ることは何かを考えて、未永く支援を続けていきたいと思

ます。

それにしても民主党政権の未熟さや危機管理不足、菅首相の指導力欠如等を露呈しながらも、未だにその地位にしがみついて離れようとしない、恥知らずのみにくい姿がさらに復興事業にブレーキをかけています。一日も早く潔く辞任して与党も野党もそれに全国民も一致団結して復興に邁進しましょう！

学びをともにする仲間とともに

能代高等学校長 第41期 佐々木 正一

6月18日(土)に、本校軟式野球部が第55回全国高校軟式野球選手権大会で優勝したことを記念し、優勝記念碑の除幕式が行われました。



全国大会派遣後援会の田中仁

純会長(同窓会長)、高塚会後藤会長、山本前校長、同窓会、PTA役員、新旧父母の会などの皆様から出席いただきました。建立に当たっては、同窓会の皆様から多大なご支援をいただき感謝しております。単なる記念としてだけでなく、軟式野球部のみならず能代高校の生徒を激励し続ける存在になるものと思います。能代にお越しの際は、お寄りいただければ幸いです。

昨年の会報に小林勝平氏(第33期)がニュートンのりんごの木について取り上げていますが、その後、土壌改良と植え替えを行いました。ニュートンといえば万有引力が有名ですが、私は、微



校長室に飾られた軟式野球全国大会の優勝旗

積分学をライブニッツと同時期に、しかも別々に作り上げたということが印象に残っています。ニュートンとライブニッツは、遠く離れていながらも独立に微分積分学を構築したということは、ニュートンやライブニッツがもし存在しなくても、それまでの科学の進歩を背景とした歴史的必然性として、別の誰か同じような理論を作り上げたのではないかと推測しています。

また、桃の花が咲いているのを見て悟りを得たという禅師がいますが、道元は、偶然桃の花を見て悟ったのではなく、悟りにいたるまでの長い年月、みんなとともに修行してきたことの積み重ねによると言います。それゆえに、修行というものは自分ひとりではできないのではなく、人々とともに切磋琢磨してはじめてできるものだという事です。能代高校の生徒諸君も、これまでの本校の歴史と伝統をバックボーンとし、同時期に学びをともにしている仲間とともに切磋琢磨し、それぞれの目標に向かって行って欲しいと願っています。

大学生の就職内定率が低いと報道されている中で、東京同窓会が本校出身の大学生に進学や就職について相談にのる機会を設けたというお話を伺い、大変ありがたく思っております。今後とも、能代高校とその卒業生に対しご支援いただきますようお願いいたします。

秋田県庁でも各校の野球部を応援

県庁能高会 第51期 佐藤 徹

県庁能高会は、会員約200名弱で、毎年2回夏と冬に懇親会を開催しています。ただし、今年の3月に予定していた先輩方の送別会を兼ねた企画は、地震により中止となってしまいました。



昨年は、母校軟式野球部が大活躍してくれたお陰で、十数年ぶりに県庁内で寄付金集めを行いました。いつも、他校の野球部の寄付に応じた身としては、ここぞと力が入りました。

実は、軟式野球部の全国大会出場が決まる前に、

能代商業の甲子園出場が決まり、旧峰浜村出身の森田新一郎県庁能高会長の関係で、能代商業硬式野球部の寄付金集めも本会で行うこととなり、短時間で二つの寄付金を県庁内で集めることとなりました。結果は、能代商業に30万円余り、母校軟式野球部には44万1千円の寄付をすることができました。もちろん、そのあとの全国優勝という最高の結果で、寄付をいただいた他校の出身の方からも大いに喜ばれました。

私個人は、現在秋田県医務薬事課医師確保対策室にありますが、仕事の関係で年に数回母校を訪問することがあります。医学部進学者を増やす取組みの一環です。手元の資料では今年度は秋田県内で55人(うち国公立41人)が医学部に進学していますが、我が母校は自治医科大学(私立大学扱い)への1人とどまりました(その前年度は3人の国公立大学医学部進学者を出しています)。正直なところ、医学部進学者は秋田高校が圧倒的に多く、国公立大学へ27人が進学しております。ついで横手高校が6人、大館鳳鳴高校と本荘高校が3人、明桜高校(秋田市)が2人となっております。

昨年度は運動部の活躍が光りましたが、今後は勉学のほうでも活躍して、県北地区の医師不足の解消に貢献してほしいものだと思います。

能代高校東京同窓会の皆様方のご活躍をお祈りするとともに、秋田で活躍してくれそうな医師の方がお知り合いにありましたら、是非ご一報をお願いいたします。

印刷・製本
ホームページの作成・更新

大森太田印刷有限公司

太田 勝治
(第29期 三種町鹿渡出身)

〒143-0015 東京都大田区大森西2-1-21
電話 03-3765-1779・FAX 03-3766-1228
E-mail: ota-p@nifty.com
URL: <http://homepage2.nifty.com/ota-p/>

特集

東日本大震災と同窓生たち

東日本大震災において被害に遭ったみなさまには心よりお見舞い申し上げます。同窓生の周囲にはなにが起こったのか、現場の声をここに記録し、復興への祈りを込めてお届けします。

●最初に、報道の現場であるラジオ局から三浦洋さん(第45期)の報告です：

2011年3月11日(金)14時46分その時、私は有楽町ニッポン放送の本社4階にいた。初めて経験する大きな揺れに思わず放送用の機材を手で押さえたのだが、実は自分の身を支えていたことに後で気づいた。放送設備には幸い被害もなく、揺れが収まると自動的に会社全体が非常体制に入った。

その後も大きな余震が続き、本震の時には発報しなかった「緊急地震速報」と大津波警報発令による「緊急警報信号」を送出することになり、職場は高い緊張感に包まれた。次々と飛び込んでくる被害状況や都内各地からの中継。CMと曲をカットした災害情報番組はその後60時間以上、生放送で続けられた。

●翌日、藤里小学校長の加藤成さんから同期生(第45期)へ安否を知らせるメールが届きました。

以下、その抜粋です：

私は、学校で翌日の卒業式に向けての準備をしていた最中に地震に遭いました。揺れを感じてすぐ職員室に向かい「相当大きな揺れの地震です、出口を確保して教室の真ん中で、机等の下に隠れなさい」と放送。揺れている間に停電してしまったので、その後の避難を促す放送が出来なくなり、職員で手分けして校内を走り回り、体育館に無事避難完了。残りの準備をすませた後に子供達を下校させました。

この時点で、明日に迫った卒業式を執行するかどうかの判断をしなければなりません。しかし、停電により情報は一切入手することができなくなり、更に停電がいつまで続くかの見通しもつかない状況です。悩んだ末に結局停電が続いても明日の卒業式は執行すると判断し、早急に教育委員会にその旨を伝えて、だるまストーブも8台ほど確保し、何とか乗り切る決意をしました。

そして、保護者の代表(PTA役員)にもこの判断と、卒業式を執行する主旨と意義を説明して、

理解を求めて翌日を待ちました。

判断の根拠は(1)停電がすぐに終わるかもしれない……甘い判断でした。(2)長く続くとすれば、いつに延期しても同じ。のばせばのばすほど困難。(3)トイレ等の水道はタンクの方は約半日持つ。半日で卒業式を済ませる。(4)卒業証書の日付が3月12日。(5)電気がない、暖房が少ない、だけが今回の問題。建物や人身に大きな被害はなかった。これはがんばれば乗り越えられる被害である。(6)その状態でも人間の営みは出来ることを、卒業生・児童に知ってもらいたい。その困難を乗り越えて式をやり通すことが出来たことを学ばせたい。この地震をまた一つ学ぶ教材としたい。

翌朝も停電は続いており暖房を供給できなかった。来賓・保護者・児童の控え室は設けずに全員が体育館に集合としました。それでも卒業生にだけは、教室にストーブを1台用意し、控え室としました。式の進行に関しては、マイクを使わずに地声でがんばることにし、入退場の音楽はピアノの生演奏と決めました。子供達には静かにしっかりと聞くようにと指導することとしました。

ところが式の準備中の午前9時過ぎになり、期せずして電気が復歸したのです。この時ばかりは涙が出るほどうれしかった。急遽、暖房を入れて控え室も準備し、放送設備も使えるようになったのです。「お祝いの言葉に先立ち、このたびの大地震で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。加えて亡くなられた方もいらっしゃることで…」と式辞の冒頭を変更し、無事に終わることができました。子どもたちや保護者にとっては、思い出に残る卒業式になったようです。

●続いて、最大震度を記録した宮城県栗原市から大塚雄蔵さん(第45期)の現地報告です：

栗原市は、平成20年の内陸地震で震度6強を記録し、山が崩れ甚大な被害を受けた。今回は、3月9日に震度5弱、11日には最大震度7を、4月7日に震度6強を記録した。3月11日は粉

雪が吹きつける肌寒い日だった。突然の揺れに埃煙が立ち込める中、書棚が倒れ、湯呑が割れ落ち、カウンターや机・椅子が気儘に動き回る。議会の天井が落下し、壁はボロボロ。道路・橋梁など公共土木への被害も甚大。住家・非住家の被害も多数。この日を境に街の風景も一変。電気、上下水道、情報通信が途絶え、信号機も点かず、灯りのない街は、極端に暗く物静かだった。コンビニやスーパーも開かずひんやりとした闇に覆われた街。日中、ガソリンを求める自動車の長蛇の列が非常事態を告げていた。

幸い、栗原市では人命にかかわる被害が皆無であった。その安堵感もあり、震災対応への動きは早かった。「今は戦時下、私の指示に従ってもらおう」と、市長の号令の下に、危機管理、消防、企画、市民生活、建設、上下水道、医療等の各部局が心を一つに、市民生活の復旧に取り組んだ。市長自らも、電気の早期復旧や燃料供給へ向け、各方面へ働きかけていた。非常時を預かるトップとは、「想定外を口走る人」ではなく、「決断と行動の人」だと改めて思い知った。

震災4日後から、電気が一部復旧し始め、沿岸部の惨状を目の当たりにした市長から、市内の復旧と並行して、沿岸部の支援にも動き出す指示が出された。国や県が本格的に動き出す前の、被災地(栗原市)による被災地(沿岸部)支援の始まり。すべてが流された沿岸部自治体へ、公用車の提供を始め、庁舎機能を果たすプレハブ設置へ向けた助言や、会計や情報システムなどに精通した専門職員の派遣、被災者の受入れへと支援が拡大された。

今回、被災地では様々なものを失い、物心に渡る多くの荷物を背負うことになった半面、失ったがゆえに、多くの気づきを得たこともあったと思う。私自身、決断力・実践力の威力を始め、大自然の美しさと怖さ、文明生活の強さと弱さ、平時の便利さが非常時には不便さに化けることがあること等々に改めて気づき、これまで見えなかったものが見え、感じなかったことを感じた。

6月中旬、田植えも終わり、山の水を引いた水田地帯が、日増しに成長する稲苗により濃い緑へと染まっていく。3月11日の巨大地震以降の長いトンネルを抜け出た、いつもの風景に安心と安

寧を感じ、その美しさがひとときわ輝いて見える。改めて、普通の景色が一番美しいと思う。

役所の床に新聞紙や段ボールを敷き、防災服を着たまま何連泊も過ごすような日々が、当分訪れないことを願う。

●支援活動のため東北地方へ赴いた東京同窓会会員も複数います。こちらは石井鉄美さん(第50期)から気仙沼での体験：



私が被災地である気仙沼を出張で訪れたのは、3.11から99日目となる6月17日のことでした。

震災見舞いに訪れた気仙沼では訪問先の社長が自ら運転して被災現場の港湾施設を案内してくれ、99日もたつてこの惨状なのだから、当時はいかばかりだったのか、想像を絶する事態だったのだろうと思わせました。それでもその社長(気仙沼三菱自動車販売)は、まさに地震のゆれのさなかに「これではお客様も社員も皆車を流されてしまい、車がなくて困る」と思いつき、すぐに三菱自動車に軽自動車100台を手配して会社名義で登録。困っている人たちに貸し出したそうです。

また、いち早く新聞広告に「未来の気仙沼地図」を掲載して復興を鼓舞したり、復興をデザインした図書券2,500枚を作って配ったりとバイタリティあふれる活躍をされていました。

お見舞いのために訪れた気仙沼でしたが、何があってもめげない不屈の精神を逆にいただいて帰ってきました。

東京同窓会ホームページの掲示板やブログには、首都圏だけでなく母校のようすを含め秋田からも大震災や復興に関する情報が寄せられました。3月以降の投稿をご覧ください。

<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

恩師に聞く

能代高校は心の故郷、人生そのもの 藤田昭夫先生

1970年(昭和45年)4月から81年(昭和56年)3月までの11年間と1984年(昭和59年)4月から95年(平成7年)3月までの11年間、国語科教師として在籍された藤田昭夫先生に、能代高校の思い出や近況をご寄稿いただきました。



◆樽子山～古ぼけた木造、でも住めば都

私の教師生活41年の約半分にあたる22年間を過ごした能代高校は、私にとっては心の故郷であり、人生そのものであると言ってもよいと思っています。そんな能代高校に、新築したばかりの能代工業高校から転任してきた時は、能代高校の校舎はまだ樽子山にあって、古ぼけた木造で、羽目板がはずれていたり、理科室はプレハブで、教室の窓ガラスには戦時中の紙が貼られたままであったり、校門までの並木のプラタナスの葉を食べて成長したアメシロが廊下を這っていたりで、何で私がこんな学校に転任して来なければいけないのかと思ったものでした。しかし、住めば都の諺のとおりで、いつの間にか春にはグラウンドの周辺の桜を賞で、秋には体育館と理科室の間に植えられている銀杏の実を拾うのが楽しみとなりました。現在はグラウンドと体育館の跡地には市民会館が、理科室のあった辺りには図書館が建っていますが、桜と銀杏とプラタナスは昔のままで、旧能代高校時代を偲ぶよすがとなっているのはほんとうにうれしい限りであります。

◆高塙～誰言うことなく幻城と呼ぶ

新校舎を建てるに当たり、樽子山では狭いというようになって、高塙の田圃の真中に移転しました。お陰で確かに校地は広くなったものの、細い農地か畦道しか通学路がなく、しばらくしてバイパスが校舎の近くにできましたが、利用客がないため路線バスは開設されず、運転免許のない私は生徒達と一緒に自転車通勤することとなりました。しかし冬になると、自転車で通うのは危険なので、学校に近い既設の路線バスの停留所から、生徒達を風よけにしながら田圃の中を、真直ぐに

校舎を目標にして歩かなければならないのです。吹雪にでもなると、目標の校舎が雪で見えなくなり立往生することもしばしばで、誰言うことなく新校舎を幻城と呼ぶようになったのを、その頃の苦労も忘れて、今では懐かしく思い出しています。

◆私の今～「古典を読む会」の講師として

私も77歳になりました。外見は元気そうですが、中味は腰痛や神経痛に時々悩まされています。そんな私が唯一やっているのが昭和57年から市立図書館を会場にして月2回行っている「古典に親しむ会」の講師です。高校での古典の授業の際は、受験指導の一貫という意味もあって、古典文法や修辞法など学ぶ側があまり興味のわからないような内容に力を入れてやらざるを得なかったのですが、今は生涯教育という名目なので、約50人の老若男女を相手に、30年目の今年は源氏物語をとりあげ、その解釈の合間を縫って、時折京都の観光案内も織り込むといった進め方で、互いに楽しみながらやっています。なによりも私にとっては、その下調べのために殆んど毎日通う図書館までの往復30分の歩行が、健康を保つ元になっていると思われることと、何をどのように話せば楽しい話になるかと考えることが、脳の活性化になっているような気がして、できれば今後もずっと続けたいものだと思っています。

◆私の一人言～能代の発展のために

能代高校に在職していた当時の私は、全国の高校や予備校の資料や情報を集めては、生徒達を浪人させずに希望の大学に合格させるため努力していました。ところが、その期待に応えて大学に合格した生徒の大部分は、大学を卒業すると都会の企業に就職して生活の基盤を造り、能代には帰って来なくなるという状態になってしまったのです。その結果、能代市の人口が減っていき、このままでは過疎の町へとどんどん進んでいくことになります。能代の発展という視点でみると、私が能代高校在職中にやってきたことは、まことにまずいことであったのではないと思われるのです。そこで同窓生の中の何人でもよいから、若い時自分を育ててくれた能代に帰って、これまで培った能力を能代の発展のために役立ててほしいのです。私は毎日夢の中で、こういう人が現れてくれないかなあと願っているのです。

【特集】軟式野球部全国制覇、国体応援をふりかえって

第55回全国高校軟式野球選手権大会(2010年8月)で能代高校が28年ぶり2回目の優勝を果たしました。大会に出場した選手の声と、翌月の国体へ応援に駆けつけた東京同窓会会員の興奮をお伝えします。

全国大会優勝を果たして

軟式野球部主将 齊藤 大(能代高校3年)

昨年度の私たちの最初の目標は全国大会出場でした。秋の新人戦で東北優勝をしてその目標が明確なものとなっていきました。能代高校は14年間、全国大会へ出場することができなかつたので、私たちが出場するんだという思いがさらに強くなりました。

そんな思いで臨んだ春の大会では、決勝で秋田商業に5対0で負けてしまいました。そこから気持ちを直し、一生懸命練習をして、ついに夏の大会を迎えました。そして、県大会や北東北大会で優勝することができ、念願の全国大会に出場することができました。

全国大会ではまず1勝を目標に試合に臨みました。一つずつ勝っていく中で自分たちが成長し、強くなっていくのを感じることができました。決勝では、チーム一丸となり、サヨナラ勝ちをして、28年ぶりに2度目の全国優勝を果たすことができました。しかし、このような結果を残すことができたのは自分たちの力だけではなく、応援してくださった方々などの支援があってこそだと思います。本当にありがとうございました。

私たちは今(6月)、新チームとして春の県大会で優勝することができました。全国大会二連覇という目標に向けて、全国大会での貴重な経験をいかして一生懸命日々の練習に取り組んでいます。私たちは、去年と比べても、まだ劣るところがあるので、さらに練習をして、またあの夢の舞台に行きたいと思っています。これからも応援よろしくお願いします。



横断幕製作プロジェクトこの指止まれ

第45期 三浦 洋

2010年9月26日に行われた千葉国体での母校軟式野球部の公開競技試合(対津久見高校戦)の応援用に急遽横断幕を作成するにいたった経過を、当時の東京同窓会ブログから拾いました。9月4日の幹事会で国体の試合を応援に行こうということになり、ブログでは7日から呼びかけが始まりました。以下、抜粋です。

◇土曜日の幹事会で、国体の応援は皆で行こうという話が出ていましたが、高校の同級生から、有志でそろって応援に行こうというお誘いのメールが来ました。31年経って、あの日の感動を思い出しているのかもしれませんが、ぜひ、この機会に、同窓生のつながりを深めたいです。(48期)

◇昼間っから開いている会場を探さねばなりませんね!祝勝会であることを祈りつつ(47期)

◇25日まで東京出張です。1日延期し、私も応援に駆け付けたいと思います。(秋田在住の48期)

◇明石は遠くて行けなかつたので、国体の応援に参加します。ポジションはスコアラーで。(50期)

◇「応援用横断幕製作プロジェクト」の発足を宣言します。費用は当日応援に駆けつける同窓生の有志およびカンパから賄うこととします。(45期)

横断幕の文字は後々のことを考慮してシンプルに「奮へ松陵健児」としました。サイズ120cm×360cm、金額3万4,300円(収納袋付き)。同窓会会員以外の方からも多くのカンパをいただきました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

試合は残念な結果に終わりましたが(抽選で津久見が2回戦進出)、終了後に横断幕のもとに集まった同窓生は全員笑顔で、その数は当初の2倍に膨れ上がっていました。

同試合はYou Tubeで見ることができます。当日のブログ「軟式野球、国体の応援に行ってきました」のコメント欄からリンクしています。

<http://blog.goo.ne.jp/shoryo-tokyo/>

平成23年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

【日時】平成23年10月15日(土)

受付 12:00～
 総会 12:20～
 講演会 13:00～
 懇親会 13:40～16:00

【会場】アルカディア市ヶ谷 6階 阿蘇の間
 JR/地下鉄(有楽町線、南北線、都営新宿線)
 市ヶ谷駅より徒歩3分
 千代田区九段北4-2-25 電話 03-3261-9921
<http://www.arcadia-jp.org/>

【年会費】3,000円(1世帯)

*卒業年次による免除や割引はありません
 *新卒者は本年のみ年会費1,000円
 (卒業時に2,000円を本部同窓会に納入済のため)

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

*割引制度や特例があります(下記参照)。

*6階・会場前の受付でお名前をおうかがいし、
 会費・懇親会費をお預かりします。

【出欠】同封のはがきは9月30日(金)までに
 投函ください。ホームページでも受け付けます。

<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

講演会 演題「我々の南極越冬」

講師：工藤 栄さん(第51期)

南極に湖があることを知っていますか？1年のうちわずかひと月ほど氷が解けて白夜の太陽に輝く水面を現す昭和基地の周辺にある湖には、南極とは思えないほど植物の生い茂った世界があります。変化し続ける地球の中に生命が誕生し、現在の繁栄を築き上げたしくみを探る格好の対象として、私は南極の湖の研究をしています。

私たちが南極で感じた自然と南極の湖の世界を紹介いたします。

プロフィール 1963年生まれ。山本中学校出身。筑波大学第二学群生物学類卒。東京大学大学院理学研究植物学専攻で修士課程修了。現在は国立極地研究所の北極圏環境研究センターの研究教育系准教授。北極での仕事を経て、南極観測・研究に越冬隊や夏隊で携わり、第51次越冬隊では隊長として2011年3月まで従事。



★出欠にかかわらず回答はがきを必ず投函してください！

同窓会案内に対して3年間連続して無回答の方は会報誌発送リストから外され、往復葉書による隔年案内または発送停止に切り替わります。個人情報保護の高まりからか、表札を掲げない人や郵便ポストに名前を表示しない人が増え、引越により違う人が住んでいても郵便物がそのまま投函され、会員の皆さんに届いていないケースが多くなってきたことからです。

*会報は3年間に1回でも「総会に出席した人」「会費の納入があった人」「回答はがきを返信した人(出欠問わず)」を対象に発送しております。

*3年間も回答のない方は案内が届いていないと見なされます。

*住所確認のためにも回答はがきの投函をお願いします。

★住所変更の届けをお願いします！

そのままですと会報誌や総会案内などが届かなくなりますので、住所やメールアドレスの変更があった人は、事務局までお知らせください。手書きでFAX(03-3766-1228)でも、ホームページ<http://shoryokenji.web.fc2.com/>からでも送信いただけます。



【懇親会費の割引・特例】男性7,000円 女性6,000円から、以下のとおり差し引きます。

- | | | | |
|-----------|-----------------|--------------------|------------------|
| 1) 初参加割引 | 総会・懇親会に初参加の同窓生は | 3,000円引 | ★1から3は重複可 |
| 2) 若者割引 | 60期生以降の同窓生は | 3,000円引 | (来年は61期生以降が対象です) |
| 3) 先輩割引 | 25期以前の同窓生は | 3,000円引 | (来年は26期生以前が対象です) |
| 4) 学生割引 | 同窓生でまだ学生の方は | 懇親会費を免除 | (年齢不問) |
| 5) 新卒者の特例 | 今年2011年に卒業の同窓生は | 懇親会費を免除 | |
| 6) 家族の参加者 | 同窓生の家族の参加者は | 3,000円のお支払いで参加できます | |
| 7) 友人の参加者 | 東京同窓生以外の参加者は | 5,000円のお支払いで参加できます | |

平成22年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

【能代中出身3名】小林肇19、信太吉右工門21、八杉和男21【能代一中出身35名】今村宏司24、木村信逸*24、畠豊彦25、岩見尚夫26、宮腰興紀29、宮腰瑞夫29、関根市男29、渡邊傑30、佐藤浩嗣*30、森田弘32、森喬夫32、金田英成33、小林勝平*33、田村博35、横田真理子35、加藤和海36、岩谷憲一38、田村敏雄*39、泉龍英*39、木村行雄*39、石塚信一43、三国昇一*44、金谷哲45、吉田真由美46、平川尚46、大塚晃*46、佐藤浩*46、北林蒔子48、大塚聡子49、石井鉄美50、吉田順53、淡路和子55、棚橋さゆり59、小野立67、滝田祐作*67【能代二中出身24名】山縣輝輔24、佐藤齊27、石川輔宏28、鈴木元紀29、藤田道義30、馬場富男31、野呂田正一32、袴田忠夫38、大塚進39、福原秀就39、福田公紀*39、小河範也41、袴田邦夫45、鎌田泰宏45、真崎裕45、石井喬46、野村一哉47、片谷浩之49、松永京子49、田村盛仁49、袴田亘51、佐藤篤規54、柳谷真澄*67、倉本真智子*67【東能代中出身4名】松橋厚32、芦崎昭紀32、小林哲40、安濃純*48【檜山中出身3名】豊嶋誠38、野村松信48、河田康史51【常盤中出身3名】大倉報三31、佐々木利幸*48、嶋田久美子55【東雲中出身7名】佐々木胤麿25、西川廣正34、庄内正34、深井学36、新堀勝男38、佐藤能雅38、直嶋博明*39【二ツ井中出身6名】石原恵美子33、石山眞35、山本達行39、大塚和博43、福岡武43、秋林泰樹46【荷上場中出身1名】山田邦夫27【富根中出身1名】智田農40【藤里中出身2名】笹木広澄29、菊池忠夫43【八森中出身5名】後藤信義27、清水靖子33、干場革治35、庄内俊憲44、和平忠幸47【岩館中出身1名】石嶋喜直27【峰浜中出身2名】大高忠勉62、小林祐子*67【沢目中出身1名】齊藤靖雄46【鶴川中出身4名】畠山信孝26、檜森寛27、大山金士郎36、佐々木恵46【浜口中出身2名】大村真陸郎27、畠山昇34【八竜中出身4名】梶原禎子53、清水俊一*53、今西拓磨78、檜森雄太*80【金岡中出身2名】高松和夫31、高松武史45【下岩川中出身2名】板倉富弥26、菅原渉39【森岳中出身1名】三浦洋45【山本中出身1名】近藤弘志65*【鹿渡中出身1名】太田勝治29【深浦中出身1名】高谷誠32【岩崎中出身1名】熊谷一美39【秋田東中出身1名】清野勝子33

◇以上東京同窓会会員参加者113名【名前の後ろの数字は卒業期、*マーク付きは22年度の初参加者16名】

◎東京同窓会以外からの同窓生2名 ◎家族1名 ◎来賓13名 以上参加者総数129名

★残念ながら当日キャンセルが5名でした(上記名前以外)。今年は是非参加してください。

平成22年度総会 都合が悪く欠席しますと回答いただいた方(敬称略)

【8期】星信勝【13期】勝永金一【14期】宮原茂悦【15期】杉本于門、吉田信一【16期】金丸明【17期】金崎邦文、茂呂定広、工藤典夫【19期】金子隆太郎、千葉孝夫、大塚哲郎、五十嵐嘉久彌、鈴木良夫【20期】小野喬、塩谷隆二、金谷芳郎、吉田裕【21期】小野茂【22期】田中克芳、村井克自【23期】石岡卓司、細田了平、設楽義雄、宮腰義昭、松橋誠喜、浅野勉、山本一二、矢口裕【24期】金野哲夫、豊田誠、金子勝信、中島正美、木村喜作、松坂タカシ、金丸正【25期】那須秋男、北島茂、民谷恒二、大山定美、小野純治、岡部忠、町田次男、工藤尊久、栗原俊一【26期】堀良三、神山正子、佐藤三郎、八柳昭義、野呂文雄、池内廣之、佐々木高博、神馬清史、本庄敬雄、宮腰英彌、佐々木章、近藤俊一、北村祐三【27期】逸見政一、斎藤秀夫、高砂浩、加賀麗子、栗原優子【28期】工藤忠道、須田正巳、岸部隆直、柴田武、野呂幹雄、後藤文昭、近藤俊三、坂本良隆、穴山勝良、三浦義輝、工藤銃也、堀内盛、中村敦美【29期】石川正順、大高一益、山崎武、大越善蔵、越前谷孝臣、佐藤扶美恵、糟谷愛、赤塚鉄男、蓼沼正紀、下間弘道、塚本祝永、中田龍一【30期】佐々木庸、工藤トシ子、今立駿、檜山章一、小形昇三、宮腰忠、泉晶彦、岩村光二、熊谷幸夫、田村正宏、宮腰七郎、相沢節夫【31期】熊谷博雄、佐藤昭夫、小田幸雄、長岡満夫【32期】佐藤俊彦、吉岡良隆、村上満喜子、越前谷明則、上田公三、奈良勝夫、菅紀夫、小高功、高田政勝、石川義彦、笠原強【34期】長岡忠光、袴田義則、棚橋東峰、杉沢忠信、阿部良和、斎藤彰悟【35期】梶修、金子永喜、小山内与治兵衛、加賀亮司、鈴木雅順、日沼聰、唐澤好文、澤目秀一【36期】嶋田星子、桜庭均、藤田辰夫、佐藤修一、武田忠克、細田静夫、男鹿浩谷市【37期】若狭秀巳、橋本悟、小杉山久晴、加茂谷純一、坂田静子、神馬潤一、小笠原芳信、小野津世子【38期】坂田二郎、柏木秀憲、金野正道、鶴野真紀子、平川孝範、戸松伸一、佐藤春香、福田満男、村中満、畑沢鉄三、棚橋牧人、田村修平【39期】保坂孝範、藤原正幸、下坂節男、小笠原牧子、金野峻明、野上典男【40期】熊澤朝子、高橋博美【41期】安部義三、加賀久毅、伊藤千恵、四ッ橋紀昭、藤田久夫、高畑仁、鈴木幸男、菊地隆【42期】工藤俊一、佐藤行信【43期】高松芳則、渡辺博栄、幸坂和彦、近藤信雄、高橋敦子、工藤富雄、佐藤悌弘【44期】武石栄伸、渡辺隆幸、宮城伸一郎【45期】相澤正和、平野信任、大塚雄蔵、河田昌俊、小杉山乙矢【46期】檜森祥生、田上道子、工藤義広、塩沢厚子、清水文彦、佐藤康准【47期】平川均【48期】加藤之、佐藤公樹、小林一彦、竹内勉【51期】安田勉、武田正晴、鶴谷則子、平塚征悦、平塚佐智子、川口行彦【52期】井瀧正彦、平澤和男、丸山晶子、井原利香子【53期】石田千洋、若杉公子、若林康人【54期】土濃塚昌隆、遠藤いぶき、横山佳子【55期】佐藤正、大山頭、棚橋はるひ【57期】塚本雅子、佐々木正之【58期】田中ゆき【59期】日吉由紀子【60期】青山文大、山口美幸【78期】長岡悠希【80期】大坂美穂

平成22年度総会 転居先不明で案内状が戻ってきた方(敬称略)

★不明のままですと名簿から削除せざるを得ませんので新しい連絡先をご存知の方は事務局までお知らせください。

【27期】工藤豊【30期】松野征、山田邦雄【32期】七尾宏一、住吉志郎【35期】内野裕子【36期】今野敬太郎【37期】館岡光春、小林雅夫、菊池伸一【38期】葉山登【39期】児玉光雄、神馬謙、袴田修平【41期】安井義則【43期】岩井道昭【45期】金子豊【52期】金野高也、信太浩信、袴田英博、嶺脇隆邦、藤田秀二、福岡和宏、納谷佳史【53期】佐藤裕美、袴田亨、船山修【57期】平川幸美、斎藤恵誠、田沢実奈子、落合徹、佐藤光子、珍田英輝、高橋敏明、鷺尾了【58期】原田長政【62期】菊池耕徳、菊池潤【67期】山谷基樹、庄司とき子【78期】門間太郎、袴田大器【79期】飯坂崇雄、三上友里菜、加藤源

平成22年度 総会・懇親会のご報告

講演会 「DOWA が取り組む資源循環型社会の実現へ」

講師：大塚 晃さん

2010年の総会・懇親会が10月17日(日)アルカディア市ヶ谷にて130名余りの参加のもと、盛大に開催されました。講演会では、第46期の**大塚晃さん**(DOWAエレクトロニクス代表取締役社長)がこれからの環境にやさしい時代の取り組みを述べられました。懇親会では、第67期の**大村小町さん**(芸人)、**YU-KOさん**(歌手)も登場し、会場は大いに盛り上がりました。



●同和鉱業の歴史

同和鉱業は、藤田組が小坂鉱山を政府から払い下げを受けて126年前に設立されたとても歴史のある会社です。小坂鉱山ではかつては小坂鉄道や自前で病院も持っていました。現在は花岡鉱山と飯島に精錬所があります。昔は鉱山に隣接して精錬所がありましたが、今では鉱石を輸入に頼るため、精錬所は港に作る傾向にあります。鉱山を持っていると全ての面で事業的に有利なのですが、昭和60年のプラザ合意以降、価格がコントロールできなくなってきました。円高になると鉱石を輸入したほうが安いので、九州の住友以外の鉱山は全滅しました。

現在は、DOWAホールディングスの傘下に5つの事業会社を配し、資本金364億円、従業員5千名のグループ企業です。

●リサイクル事業への取り組み

DOWAグループでは、20年前にリサイクル事業に着手しています。精錬をもとにしたシナジー効果を狙ってスタートし、当時30代だった我々にも数10億規模の事業をまかされ、実を結びつつあります。

先ごろ中国が輸出規制を行って話題になったレアメタルは31種類あります。資源は、地球上の

存在量が少なくて年間採取量が多ければ早く枯渇するのですが、銅、亜鉛が早く無くなるとみられています。レアメタルは結構あって、中国にしかないわけじゃない。中国から買うと安いということなんです。通常は製造費の3倍を環境対策費用に充てるのですが、中国はまだこの率が低いので安いということなんです。いずれにしても輸入各国がリスク分散していきますので、レアメタル不足の問題は解消していくとみられます。

ここでちょっと高校時代の化学の復習をしましょう。水平リーベ僕の船…。元素周期表では、Cu(銅)とAg(銀)、Au(金)は縦の同列にあるグループなので銅鉱石には金、銀が含まれることが多いんです。700mの地下に閉じ込められたチリの銅鉱石鉱山にも金が含まれています。鉱石の分離には、「溶かして酸化還元」「蒸発させて集じん器で収集」「電解精製」の3つの方法があります。

●小坂町のリサイクル施設と将来展望

非鉄メジャーの買占めや、2009年からは中国も加わって、鉱石価格は高騰し鉱石不足となりました。いま「都市鉱山」が注目されています。携帯、工場排出品、電子部品など、純度の高いものが都市にあるため、「都市鉱山」という言われか

たをしています。金、銀、銅、レアアースなど純度が高く、効率良くリサイクルできるんです。

小坂町のリサイクル施設は2008年に作りました。秋田では小型家電を回収していますが、まだ採算ベースにのっていません。日本では工場から排出されるものにボリュームがあつて回収しやすい。北米では使用済み製品回収が進んでおり、日本でもこうした考えです。先ごろ中国からミャンマーへの不法投棄があり問題になりましたが、当社では小坂に最終処分場を作り、シートでためこむ方式をとっています。2008年の秋田国体の

ときに皇太子殿下にご見学いただきました。

DOWAエレクトロニクスは、秋田市で半導体を作っています。ガリ砒素は世界の80%シェアで、DVD用に開発しました。携帯の赤外線通信に利用されています。私の若い頃はシェア100%だったのですが、最近はノキアが切り替えたため世界の30%を切っています。それでも日本国内シェアは75%です。小坂へのリサイクル材料の運搬は、八戸港と男鹿港を使っています。将来は能代港も使いたい。また、今後は高速道も物流手段として使いたいですね。(記録/石井鉄美 第50期)



初参加者の紹介



来賓の方(左)と乾杯



母校の山本校長先生(前列左から二人目)と同期の第39期生



講師の大塚晃さん(後列中央)と同期の第46期生



秋田弁でしゃべる大村小町さん(第67期)の漫談



ステージから降りて歌うYU-KOさん(右)と第67期生たち

東京同窓会の同好会

東京同窓会には、同窓生のさらなる親睦のために同好会があります。

各会の基本情報および今年度の活動歴を掲載します。棋聖会が正式に発足しました。また、変更事項のあった五日会について、あらためて活動内容をご紹介します。

これらの会の担当者に連絡を取りたい人や、新たな同好会の提案や希望がある人は、事務局宛にご連絡ください。

連絡先メールアドレス(東京同窓会事務局):
shoryo-tokyo-01@live.jp

◇棋聖会

＜活動内容＞囲碁・将棋の同好会です。年に3～4回程度、土・日の午後開催を予定しています。
＜代表者＞石川正順(第29期)



◇能高五日会

＜活動内容＞能代高校同窓生の青年部。活きのいい若手同窓生たちの親睦と交流を目的にした懇親会です。設立は2006年1月5日(五日会の由来でもあります)。季節ごとに趣向を凝らした飲み会を開催しております。自分が若いと思っている人はだれでも青年です。入会資格は故郷と母校を愛していること。同期の友だちや先輩、後輩、親戚や縁故知人などの方に声をかけてください。何人連れてきていただいてもけっこうです。

＜代表者＞石井喬(第46期)

＜今年度の活動＞

10月、紅葉会に新しい人4人を含め21人が参加。

12月、忘年会は火鍋屋で食べ放題・飲み放題。

1月、新年会は二次会のカラオケ付き。

5月、花見会で初めて土曜日18時からの開催。19人集まりました。

7月、暑気払いも土曜開催。20人が集まり、第75期生が初参加。

◇樽子山会

＜活動内容＞樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。

＜代表者＞畠豊彦(第25期)

＜今年度の活動＞

6月、新緑の北鎌倉を散策したあと、「しゃべろう会」開催。

◇能球会

＜活動内容＞年2～3回、東京近郊のコースでゴルフを楽しみます。

＜代表者＞石井喬(第46期)

◇能高釣クラブ

＜活動内容＞自然を満喫しながら溪流釣を楽しみ、昼はバーベキュー、夕方は温泉で疲れを癒します。

＜代表者＞小河範也(第41期)

＜今年度の活動＞

11月、山梨県都留市鹿留で、溪流釣りとう温泉を楽しみました。

◇能高バスケの会

＜活動内容＞能代カップやウインターカップ、日本リーグやbjリーグ(日本プロバスケットボールリーグ)観戦、観戦後の掲示板への掲載、本校バスケット部やバスケット部OB会との交流などによる情報交換。

＜代表者＞片谷浩之(第49期)

御徒町で同窓生に会える店

ふぐ・季節料理
きくち

第43期 菊池忠夫



〒110-0005

東京都台東区上野6-6-4 デュークビル1F

JR 御徒町駅より歩いて3分位

電話 03-3839-3382

e-mail: fugu-kikuchi@mrg.biglobe.ne.jp

白神山地(藤里町)出身

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~fugu-ki/>

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/g2kikuchi.html>

＜今年度の活動＞

8月、第30回官公庁バスケットボール大会を観戦、能代市役所チームを応援。

1月、能代高校バスケットボール部OB会総会に出席。

◇東京探訪の会

＜活動内容＞年2回、日常あまり触れることのない「東京」を訪ね、約2時間のコースを散策します。

＜代表者＞吉田真由美（第46期）

＜今年度の活動＞

11月、浅草七福神めぐりに15人が参加。

4月、紀尾井町散策。雨の中、ひと味違った風情を楽しみました。



七福神めぐりの途中、隅田川の河畔で建設中のスカイツリーをバックに

能代高校同窓会・各支部をご紹介します

本部と各支部の所在地をご紹介します（2010年10月15日現在の情報）。

	名 称	所 在 地（連絡先）	会長・支部長	期
本部	能代高校同窓会	016-0184 能代市高埜 2-1 能代高等学校内	田中 仁純	25
支部	秋田支部	010-0976 秋田市八橋南 2-10-16 農協ビル 6階 柴田・加賀法律事務所内	加賀 勝己	30
	県庁能高会	010-8570 秋田市山王 4-1-1 秋田県庁 秋田県 医師確保対策推進室 佐藤徹	森田新一郎	40
	大館支部	017-0844 大館市新町 10	西村 銀三	14
	八竜支部	018-2401 三種町鶴川字昼寝下 67-1	岩谷 隆	31
	鷹巣阿仁支部	018-3322 北秋田市住吉町 8-27 田中三夫		
	二ツ井支部	018-3119 能代市二ツ井薄井 58 秋林俊明	豊澤 幸夫	20
	藤里町松陵会	018-3203 藤里町大沢字館の下 21-8	石田 洋三	27
	北海道支部	064-0804 札幌市中央区南 4条西 6-11-2 全日ビル 7階 (株)雪研スノーイーターズ内 大槻政哉	菊地 晃二	27
	青森支部	030-0966 青森市花園 1-27-18	原田 和夫	26
	松陵津軽会	038-2202 深浦町岩崎字玉坂 10-3	七戸 仁	47
	近畿同窓会	655-0002 神戸市垂水区小東山 5-6-7	平川 長	29

一般に私達が認識している霊魂という得体の知れないものは、当初から当然のこのように、この世に存在しているという前提のもとに物事が進められているようであるが、これは霊魂の存在を実証しない限り、その全てに共通する大きな矛盾や欠陥や、それに対する疑問を否定することはできないであろう。

あなたは霊魂と対話ができる

ついに霊魂の存在が今明らかに

著 者 能代高校第17期 茂呂 哲彦

発行所 日本文学館 定価(税込) 840円

霊魂の存在について、その所在や容姿や行動を科学的に物理的に推理、探究した結果、その存在が確認されたのである。



会員だより

東京支えた東北を心に刻もう

第48期 佐々木利行

昨年、社内報（秋田銀行）に随想を依頼され、次の文章を寄稿しました。

“東京に住んでみて、林立する高層建築、張り巡らされた高速交通網など、その偉大ともいえる都市基盤について改めて感嘆を禁じえない。しかし、この偉大なインフラの建築に多くの秋田県民が携わったことを皆さんはご存じだろうか。秋田県は、日本が高度成長期の建設ラッシュにわく中、冬季の出稼ぎという形で、首都圏に労働力を提供し続けた。今の東京が成り立っているのは、秋田県民の、多くは農家であるが、その力が大きく寄与したものと断言してよいといえる。（中略）しかしいま日本の農業、特に秋田県のような稲作単一農業に批判が多い。いわく、高いコメを買わされている、消費者の犠牲で成り立っている、と。こうした批判を聞くと、冒頭に述べた事実、東北の農業の犠牲のもとに、日本、特に大都市の発展が成し遂げられた事実が忘れ去られているようで悲しい。”（以下省略）

農家の長男として出稼ぎに接してきた自分としては、首都圏だけでなく、秋田県に住む人たちにも、大事な歴史が忘れ去られていくことの危機感が根底にありました。

今般の大震災で東北は深刻な被害を蒙りましたが、大震災はまた、首都圏の電力までもが東北地方に依存していたことを白日の下にさらしたことは周知のとおりです。

そうしているところで、「東京支えた東北を心に刻め」というタイトルの大川健嗣山形大学名誉教授のインタビュー記事を朝日新聞で読み、これこそ自分が明確に伝えたかったことだと感じました。紙幅の関係で一部のみですがエッセンスは十分伝わると思います。

“避難指示を受けて避難所で肩寄せ合う人たちは、金を出せば利便性を買える大都市生活者の犠牲者と見ることも可能ではないでしょうか。戦後、人と食料、電力まで供給し、都市生活を裏で

支えた…東北に対し、都市住民は何をしているのでしょうか。計画停電に不満を漏らし、日用品の買いだめに走る。福島県南相馬市長の悲痛な叫びを聞きましたか。震災で全国の目が集まっている今、東北が果たしてきた役割をあらためて考えてほしい。”

その後、東北支援の輪が広がりつつあり、やや言い過ぎの感がないではありませんが、今回の震災が、都市と東北とのかかわりを再認識し東北を正しく評価するきっかけとなること、東京を支えた東北がみんなの心に刻まれ続けることを願ってやみません。

（佐々木さんは現在秋田市でご勤務なさっています。）

元気のもと

第47期 山田 肇

18の春、能代を出てから早34年。幸い両親は健在で、毎年能代からおいしいものを送ってくれる。私が必ずリクエストするのは、ジュンサイと地酒「能代」。昨年、会社の後輩7名に振る舞ったところ、両方とも大好評で、おなかいっぱい堪能してくれた。今年もジュンサイをどんぶりいっぱいにして、好きなだけ食べられる私は幸せ者である。

「日にすすむ 文化のしるし 米代の かわおと聞いて…」と年に数回、心の中で歌う（旧）能代市民歌。おぼろげながら小中学校でこの歌にあわせて行進した記憶がある。能代での懐かしい思い出がよみがえると共に、とても元気が出てくる。合併を機に能代市民歌が新しくなったが、合併前の（旧）能代市民歌もいつでも聞けるよう、インターネットのどこかに残っていて欲しいと思う私である。



2011年1月9日、上野で開かれた第47期の同期会。能代からの参加を含めて、総勢17人の楽しい集まりとなりました。

学生懇談会のご報告

第39期 菅原 渉

今年6月19日に「学生の皆さんと東京同窓会との懇談会」が開催されました。ある学生から「今後の進路や就職に関する心配や不安」の相談を受けたことがきっかけです。このような悩みは一人に限らずみんなに共通する内容だろうとのことで、東京同窓会としては初めての試みでした。

最近テレビでは「50社以上訪問したがまだ内定がもらえない…」、中には「自分は社会に必要とされていないのではないか…」と落ち込む学生の姿など、就職氷河期と言われる厳しい就職活動の実態が繰り返し報道されています。そんな中、一人で悩んだりしないで「同期のみんなはどうしている？先輩達はどうやったの？」などと気楽な形で話しあったり、他の人の話を聞いたり出来る機会はきっと意義のあることと思います。希望する会社に直接入れてあげることが出来ないが「面接する側はこの様な面を見ている」「何を基準に採否を判断しているか」などの実務担当者の話は大変参考になると思えました。

ただ今回窓口を担当してみて、学生達の関心の低さが気になりました。21人への案内に対して(大学4年生と3年生を対象)、同封した回答ハガキが戻ってきたのは2通だけ。その後メールや電話で各人に出欠確認をとるもアドレスが変わっていたりして、知らない人からの電話には出ない風潮もあり、なかなかコンタクトを取ることが困難でした。「当日アルバイトを交代できたら出ます」との条件付き出席や、希望する会社に入れるなら行くけど…とクールに構える姿にも現代っ子らしさを感じてしまいました。

本件で母校や地元の親御さんと話しましたが、皆さん一様に大きな関心と期待を寄せていたことを思うと、その温度差の大きさに驚かされました。今回の様な企画は若き後輩達に直接支援できる活動の一つと思いますが、難しいことも事実で、今後の課題も多く見えた様な気がします。今後は母校なども連携を取りあってより良い形での支援を目指していく必要があると感じました。

当日は懇談会終了後に懇親会を開き、更に参加者同士の交流を深め合いました。東京同窓会の先

輩達は多士多彩、仕事の業種も実に多岐にわたり経験豊富な人ばかりです。親子や孫ほども年代が違う同窓生であっても、親しくなると親身になって応援してくれる人達ばかりですので、まずは気楽な気持ちで10月の総会・懇親会に参加して、皆さんと顔見知りになって欲しいと願っています。



真剣な話し合いのあと、有志で楽しく懇談会

ご縁は宝

第29期 関根 市男

去る5月14日(土)満70才(古稀)の記念パーティーを、アルカディア市ヶ谷で実施した。127名の出席者の皆様に祝ってもらい盛況裡に終了した。

この70年を顧みて、忘れ得ぬ思いが二つある。一つは母とのこと、そしてもう一つは能代一中当時の音楽の先生の思い出である。

あれは昭和31年3月の中学校卒業間近の最後の音楽の授業であった。先生は「この曲は教科書には載っていないが、いい曲なので是非覚えてもらいたい」と言って「箱根の山」を教えてくれた。古文調の歌詞を分かり易く説明し、くり返しピアノを弾いてくれた。

戦後10年足らずの時代であったが、東京の音楽大学を卒業した本格的な音楽の先生であった。音楽の授業が楽しく待遠しかった。その先生の名は工藤太刀雄氏。同窓生第46期の吉田真由美さんの御父上である。「袖ふれあうも他生の縁」というが、御縁を宝とし、今年も同窓会に出席し、皆様との御縁を大切にしていきたいと思っている。

平成23年度(2011年)収支決算報告書

(平成22年8月1日～平成23年7月31日)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	880,000	751,000	総会費	1,175,000	1,168,058
会費収入	545,000	577,000	組織拡張費	43,000	24,115
雑収入	40,500	131,963	一般管理費	247,200	309,735
当期合計	1,465,500	1,459,963	当期合計	1,465,300	1,501,908
			当期収支	200	-41,945
			応援基金	0	20,000
			預かり金	0	17,000
			前年度繰越金	1,020,556	1,020,556
			翌年度繰越金	1,020,756	1,015,611

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料および東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

平成23年度年会費納入者(敬称略)

(2010年8月1日～2011年7月31日に入金頂いた方)

【8期】星信勝【17期】工藤典夫、茂呂定広【18期】相沢鉄治、貝田正【19期】小林肇、千葉孝夫、五十嵐嘉久彌、大塚哲郎、金子隆太郎【20期】小野喬、吉田裕、塩谷隆二、金谷芳郎【21期】五十嵐資和、金井惇、小野茂、八杉和男、信太吉右工門【23期】矢口裕、山本一二【24期】山縣輝輔、今村宏司、金子勝信、豊田誠、中島正美、金丸正、木村信逸【25期】畠豊彦、佐々木胤麿、町田次男、工藤尊久、北島茂、栗原俊一、那須秋男、民谷恒二【26期】畠山信孝、板倉富彌、宮腰英彌、佐々木高博、岩見尚夫、池内廣之【27期】檜森寛、大村真陸郎、後藤信義、斎藤秀夫、栗原優子、石嶋喜直、川井芳敬、斉藤齊、山田邦夫【28期】石川輔宏、須田正巳、穴山勝良、浅野勉、堀内盛【29期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、宮腰瑞夫、鈴木元紀、中田龍一、糟谷愛、塚本祝永、嶋田雄右、越前谷孝臣、笹木廣澄、赤塚鉄男【30期】熊谷幸夫、藤田道義、相沢節夫、渡辺傑【31期】馬場富男、大倉報三、高松和夫、長岡満夫【32期】高田政勝、高谷誠、森喬夫、森田弘、菅紀夫、野呂田正一、芦崎昭紀、松橋厚、奈良勝夫【33期】金田英成、清水靖子、清野勝子、石原恵美子【34期】庄内正、長岡忠光、西川廣正、棚橋東峰、畠山昇【35期】石山眞、横田真理子、干場革治、榊修、加賀亮司、金子永喜、金谷満郎、川添能夫、田村博、平川徳道【36期】深井学、加藤和海、武田忠克、男鹿谷浩市、大山金土郎、嶋田星子【37期】加茂谷純一、小野津世子、袴田大蔵【38期】豊嶋誠、岩谷憲一、佐藤能雅、袴田忠夫、新堀勝男【39期】大塚進、菅原涉、金野峻明、熊谷一美、泉龍英、直嶋博明、田村敏雄、福田公紀、木村行雄【40期】智田農、小林哲、熊澤朝子、高橋博美【41期】小河範也【43期】福岡武、菊池忠夫、佐藤悌弘、渡辺博栄、大塚和博、高橋敦子、石塚信一、近藤信雄【44期】庄内俊憲、三国昇一【45期】三浦洋、袴田邦夫、大塚雄蔵、鎌田泰宏、真崎裕、高松武史、金谷哲、平野信任、小杉山乙矢【46期】石井喬、吉田真由美、斉藤靖雄、秋林泰樹、佐々木恵、佐藤浩、平川尚、大塚晃【47期】和平忠幸、野村一哉【48期】北林蒔子、竹内勉、安濃純、佐々木利幸、佐藤公樹、淡路正則【49期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁、大塚聡子【50期】石井鉄美【51期】袴田亘、河田康史、鶴谷則子【52期】井瀧正彦【53期】吉田順、梶原禎子、清水俊一【54期】佐藤篤規、遠藤いぶき【55期】淡路和子、棚橋はるひ、嶋田久美子、大山顕【59期】棚橋さゆり【60期】青山文大【62期】大高忠勉【65期】近藤弘志【67期】小野立、小林祐子、倉本真智子、滝田祐作、柳谷真澄【78期】今西拓磨【80期】檜森雄太

以上合計 197名

※年会費世帯制の適用者3組は二人の名前を掲載しました。

【編集後記】

▽日々の貴重なお時間を割いて会報のためにお骨折りいただいたみなさま、あらためてお礼申しあげます。(淡路 55期)

▽藤田昭夫先生は同窓生へのメッセージとして「たまには故郷を思うこと」「故郷のことを田舎といわないこと」とおっしゃっています。去年の夏、49期の同窓会では、先生と同窓生の方との話をうれしそうに語っていただきました。一見強面のお顔立ちとお声に背筋を伸ばした生徒も多かったのでは？でも先生が一人ひとりの生徒のことを思って指導して下さっていたことを、いまさらながら感謝いたしました。ありがとうございました。(大塚 49期)

▽3月11日の東日本大震災は東北出身の私たちにとって他人事とは思えず、会報でも記録を残しておくべきではないかと話し合い、特集を組みました。被災地の一日も早い復興を願っています。去年は軟式野球部全国制覇で東京同窓会も沸きました。会報に寄稿してくれた野球部主将、斉藤大君の率いる今年のチームもみごと全国大会出場を果たしました。(吉田 46期)

松陵健児

能代高校東京同窓会 会報 第21号

発行日 平成23年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 太田勝治

編集 会報誌委員会

印刷 大森太田印刷株式会社

■能代高校東京同窓会事務局

〒143-0015

東京都大田区大森西 2-15-21

大森太田印刷株式会社内

電話 03-3765-1779 FAX03-3766-1228

郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会